

## オーディオ実験室収載

### STAGE+を楽しむ(308)(HP 収載)

#### —ラヴェルのピアノ協奏曲—

##### 1. 始めに

前報(307)に引き続き、STAGE+のチョ・ソンジンのラヴェルのピアノ協奏曲の演奏の試聴を実施します。

##### 2. 試聴音源

今回は、前報(307)に引き続き STAGE+のチョ・ソンジンのラヴェルのピアノ協奏曲の演奏を選びました。

ビシュコフとチョ・ソンジンがラヴェルのピアノ協奏曲で共演

チェコ・フィルハーモニー管弦楽団

収録日: 2025年9月26日

チェコ・フィルハーモニー管弦楽団は、長きにわたる伝統と美しいサウンドの代名詞でもありました。音楽監督セミヨン・ビシュコフのもとで新たな栄光の時代を迎え、さらなるレパートリーの開拓にも力を注いでいます。2025/26年シーズンの開幕コンサートで取り上げるのは、ビシュコフの十八番、チャイコフスキーの交響曲第5番。前半では、今をときめく韓国人ピアニスト、チョ・ソンジンとの共演で、ラヴェルのピアノ協奏曲ト長調が披露されます。ジャズの影響を受けた色彩豊かな作品で伝統とフレッシュな創造性が融合し、魂を揺さぶる魅惑的な演奏になることでしょう。プラハが誇る由緒あるルドルフィヌムの美しい建築にもご注目ください。

ソリスト:

チョ・ソンジン (ピアノ)

演奏:

チェコ・フィルハーモニー管弦楽団

指揮:

セミヨン・ビシュコフ

曲目:

モーリス・ラヴェル ピアノ協奏曲ト長調 M. 83

チョ・ソンジン(ピアノ)

モーリス・ラヴェル ソナチネ M. 40 より第2楽章 : Mouvement de menuet

チョ・ソンジン(ピアノ)

ピョートル・イリイチ・チャイコフスキイ 交響曲第5番ホ短調 op. 64



### 3. 試聴の経過

前回に引き続き、これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナツも使用しています。さらに、スピーカーアキュライザーのマイナス端子への Crystal EpY-G の接続を継続し、PC の仮想アース Crystal E Jtune を連結しています。

また、ルーター→スイッチングハブ間の LAN 接続に OPT ISO BOX を適用し、OPT ISO BOX の AC アダプターの DC ケーブルに FX Audio の Petit Susie Solid State を介在させてスイッチング電源からのノイズの低減を図っています。

今回、スイッチングハブ→PC 間 LAN 接続は、LAN iPurifier Pro の交換後に元に戻しています。

今回は、PC の受信からクロック入力の修理済の Brooklyn DAC+に送り出しています。また、下記のとおり、PC と Brooklyn DAC+の間の介在は、iPurifier USB からインフラノイズの USB アキュライザーに交換しています。クロック入力は ABS-7777 を適用しています。

ラヴェルのピアノ協奏曲ト長調は、きらびやかな色彩感あふれる曲で、チョ・ソンジンのピアノがきらきらと輝きます。

ラヴェルのソナチネ M. 40 第2楽章は、アンコール曲で静かな表情をたたえています。

チャイコフスキーの交響曲第5番は、お馴染みの曲で、ビシュコフ指揮の:チェコ・フィルハーモニーが、メランコリックな表情を重厚に描いていきます。



#### 4. まとめ

これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナツや Crystal EpY-G や PC の仮想アース Crystal E Jtune を連結し、LAN 接続に OPT ISO BOX と電源交換した LAN iPurifier Pro を適用し、ABS-7777 からのクロック入力の Brooklyn DAC+に送り出し、PC と Brooklyn DAC+の間には USB アキュライザーに交換した結果、ラヴェルとチャイコフスキーのそれぞれの表情を描き出していきました。

以上